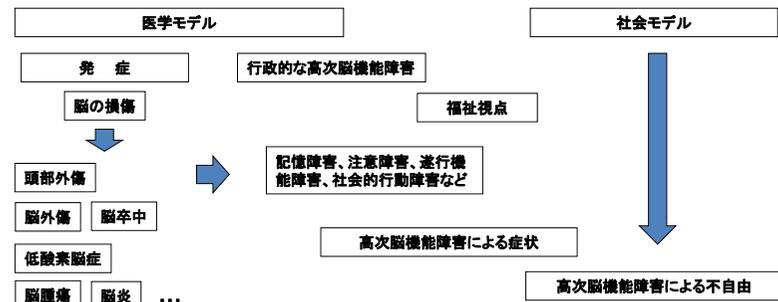


7 高次脳機能障害と交通バリアフリーを考える

高次脳機能障害の定義

- ・学術的には、脳損傷が原因の失語・失行・失認や記憶障害など各種の認知機能の障害を高次脳機能障害と定義している、らしい・・・
- ・しかし、厚生労働省の診断基準では、「記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害」の4障害を指してる。
- ・医学的に統一した定義はなく、専門家によっても「高次脳機能障害」という言葉の指す範囲が異なるらしい。
- ・学問の領域でこの用語を使うときと、福祉の仕組みの中でこの用語を使うときでは定義が異なる。

正直、素人には理解不能につき次頁の症状を考えました



高次脳機能障害者の行動と症状(1)

障害の種類	障害行動の内容	想定される交通機関における不都合
注意障害	<p>仕事に集中できない すぐ飽きる、気が散る 火を消し忘れる ミスが多い 椅子や車椅子で寝ていることが多い 車椅子で車内を歩き回り、他の部屋に入っていく 他人に興味を持ち、くっついて離れない 隣の人の作業に、ちょっかいを出す 周囲の状況判断せずに、行動を起こそうとする エレベーターのドアがあくと、乗り込んでしまう 作業が長く続けられない 人の話を、自分のことと受け取って反応する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・列車の到着、発車などに気付かない ・立ち入り禁止箇所に入ってしまう ・整列乗車ができない ・休憩をしたいが場所がない
記憶障害	<p>昨日のことを覚えていない 約束を忘れる 新しいことを記憶できない 約束を守れない、忘れてしまう 大切なものをどこにしまったかわからなくなる 他人が盗ったという作り話を 何度も同じことを繰り返して質問する 新しいことを覚えられなくなる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行き先、行程などが記憶できない ・説明を受けても忘れてしまう ・乗車券のありかを忘れてしまう
遂行機能障害	<p>日常生活や仕事の内容を計画して実行することの障害</p> <p>整理整頓ができない 計画がたてられない うまく修正できない 約束の時間に間に合わない 仕事が約束どおりに仕上がらない どの仕事も途中で投げ出してしま 記憶障害を補うための手帳を見ると、てためめの場所に書いてしまう これまでと異なる依頼をされると、できなくなってしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電車、バスが遅れると対応できない ・行程を計画、段取りできない

高次脳機能障害者の行動と症状(2)

障害の種類	障害行動の内容	想定される交通機関における不都合
行動と感情の障害	<p>自分の行動や感情をコントロールすることの障害</p> <p>やる気がない 引きこもりがち 怒りやすい 暴力、暴言 感情をコントロールできない 子どもっぽい 衝動的に行動してしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション障害 ・異常時への対応ができない
半側空間無視	<p>目の前の空間の半分に注意が向かない障害</p> <p>食卓の左半分を残す 車いすの左半分がぶつかる 右に寄って歩いてしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームからの転落 ・施設位置の認識ができない
失語症	<p>話す、聞いて理解する、書く、読むことの障害</p> <p>思うように言葉が出ない 話しが理解できない 字の読み方を忘れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・係員とのコミュニケーションができない ⇒コミュニケーション支援ボードなどを活用する ・表示の理解ができない
失行症	<p>麻痺はないのに、意図した動作や指示された動作ができない障害</p> <p>慣れていた装具の使い方がわからない お茶の入れ方がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・券売機が使えない
半側身体失認	<p>身体の麻痺側への注意が払われなかったり、認識が低下してしまう障害</p> <p>食卓の左半分を残す 車いすの左半分がぶつかる 右に寄って歩いてしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーターへの片側空けに対応できない ・片側の施設が認識できない
地誌的障害	<p>地理や場所が分からなくなる障害</p> <p>迷子になりやすい 自分の家の地図がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・迷う ・地図が理解できない
失認症	<p>見ているもの、聞いているもの、触っているものが分からなくなる障害</p> <p>見えているものがわからない 聞こえている音がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電車で近づいてしまう ・表示や放送が理解できない

高次脳機能障害者と障害者手帳

障害者総合支援法の施行に伴い、手帳制度の改善の兆しはあるが、現時点では交通機関において精神障害者保健福祉手帳によるJR、航空機や一部のバス、タクシーの割引はない

手帳の種類	手帳の交付条件	JR等の鉄道	バス	タクシー	航空
精神障害者保健福祉手帳	高次脳機能障害によって日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象になる	割引なし※	割引がない、または一部で実施※	割引がない、または一部で実施※	割引なし
身体障害者手帳	手足の麻痺や音声・言語障害があり、厚生労働省の定めた身体障害者程度等級表に該当する場合	○	○	○	○
療育手帳(みどりの手帳等)	発症(受傷)が18歳未満で、自治体が指定する機関において知的障害と判定された場合	○	○	○	○

※身体症状と精神症状を併せ持つ場合には、2種類以上の障害者手帳を申請することができる。
 ※自治体の運営する公営交通(バス、地下鉄等)では割引または無料制度がある
 ※戦傷病者手帳については対象外とする

例として情報問題

そもそも障害者とは？

・情報に不自由があるのは(情報)障害者だけとは限らない

- ⇒情報により健常者も障害者となる
- ⇒情報機器・情報提供により障害者も障がいを軽くすることが可能(機能の代償)
- ⇒コミュニケーションの重要性



いま、情報・通信の役割？

・インターネット、デリバリーや宅配システムの高度化により、自宅でほとんどのことが済ませることが可能とはなった・・・



- ⇒高齢者・障害者も健常者と同じく外出したいのは当たり前(散歩、買い物、遊び、交遊など)
- ⇒家に閉じこもれば運動機能が廃用につながったり(廃用症候群)、健康を維持できなくなる

- 情報・通信により生活を活性化はできる
- 情報・通信で人々を街に出やすくすべき
- 街に出ても情報・通信が移動を支援する

ただし、情報格差をつくってはならない

公共交通機関で移動時に障害者の必要とする情報

状態	主な情報種別	例
移動前	・移動経路と時刻 ・トイレ ・駅などの対応状況 ・支援者(介助)依頼 など	・らくらくおでかけネット ・Check a Toilet ・乗り換え情報(インターネット、冊子など) ・点字情報 など
移動中	・トイレ ・乗り換え、駅情報 ・接近、到着情報 ・車内情報 など	・駅、車内放送、案内標示、車内可変標示 ・コミュニケーション支援ボード ・電話お願い手帳 ・券売機、車内の点字情報 など
移動後	・到着情報 ・情報更新 など	・メール、電話、インターネット ・伝言板 など
異常時	・異常時案内情報 など	・駅放送、案内標示 ・車内案内標示 など
非常時	・非常事態情報 ・避難、待機情報 ・誘導情報 など	・駅放送、案内標示 ・緊急地震速報 ・テレビ、ラジオ、インターネット など

97

情報の例

らくらくおでかけネット



デジタルサイネージ



昔ながらの伝言板とディスプレイ

Check a Toilet



韓国の場合

とは言ってもやはり紙媒体



98

「らくらくおでかけネット」とは

エコモ財団が提供する外出時の公共交通情報サイト → 携帯電話にも対応
<http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/>

- バリアフリーに特化した
- ・経路検索
 - ・駅構内図(バリアフリールート)
 - ・ハンドル形電動車いす利用可能駅情報 など



99



情報過多と意味不明な優先席



やはり情報の総量とバランスか？
(バリ北駅)

100

東京・浅草駅地区で「電子透かし」を使ったターミナル間の誘導実験を実施

- ・都営浅草線浅草駅・東京メトロ銀座線→東武線浅草駅間のバリアフリールートの誘導
- ・バリアフリールートはラッチ外の地上を通行しなくてはならない(約700m)
- ・現状では道路上め何情報がない ⇒ **健常者でも理解できない**

都営地下鉄浅草駅ー東武浅草駅ー東京メトロ浅草駅



実験風景 (2012.03)



携帯電話上の画面



かといって情報をどのように提供するか

- 設置が難しい路面標示と上釣り式標示
⇒駅など人通りが多いところで路面だけで誘導するのはダメ



※工事中における表示であるが見やすい表示であった

非常時・異常時における情報提供はどうあるべきか

- ・障害者の多様性に考慮して多様な手段で情報提供すべき
⇒手話、文字放送、音声(ラジオ)、漢字にルビをふる、多言語
⇒障害者も活用する携帯電話(ろうあ者には予想外の展開)
- ・精神、知的、発達障害者への対応は慎重に行う必要がある
⇒ただの情報の垂れ流しは注意の必要
⇒最後は人による直接対応
- ・簡単に意思表示や意思確認する手段の役割は大きい
⇒コミュニケーション支援ボードなど
- ・事前の予防、準備、訓練が大事
⇒障害者・高齢者は情報を得ても行動判断ができない場合が多い
⇒あらかじめ避難経路や誘導する人、方法を決めておくと安心できる
⇒そのためには訓練が大事である
- ・情報の質や内容も異なる場合が多い



3.11東日本大震災で気づいた情報の重要性

- ・ 安否情報はつながったのか
- ・ 避難情報は適切に届いたか
- ・ 避難行動につながったか
- ・ 避難、被災時に家族、医療機関、福祉施設に連絡できたか
- ・ 逆に医療機関、福祉施設から本人、家族に連絡できたか
- ・ 避難所の情報が整理されて届いたか
- ・ 物資や支援要望が適切に出せたか、届いていたか
などなど



人は情報により動く
⇒適切な情報がなくては障害者は特に右往左往

105

健常者も弱者に、障害者はなお弱者に！

情報はどう考えるべきか？

- ・ 避難しなくては命が危ない から 避難しておいた方が無難とのギャップ
- ・ さらに、(責任逃れかもしれないが)役所は避難警報を出しておいた
⇒役所は上から来たので情報を流すが、中味や信ぴょう性は分からず

これを受け取って障害者はどうなるか？

- ・ パニック
- ・ 逃げるべきか、逃げる必要までないのか自己判断できるか？
- ・ しかし、逃げたくても逃げられない
- ・ 言っていることが理解できない



106

8. 外出するという事

107

外出するという事の効用

ステップ	
1	身なりを整える ⇒生活リズムをつくる
2	計画を立てる ⇒調べる、準備をする
3	行動に移す
4	コミュニケーションをとる ⇒会話のやりとり
5	刺激を受ける
6	代償機能を発見する
7	楽しい、失敗も経験になり自信になる
8	生活にメリハリができ、目標になる
9	また行きたくなる
10	外出が目的から、外出先での目的ができる
11	就労がかなう
12	交遊・交友が広がる ⇒社会とつながる
13	社会・生活が広がる ⇒生活空間が広がる

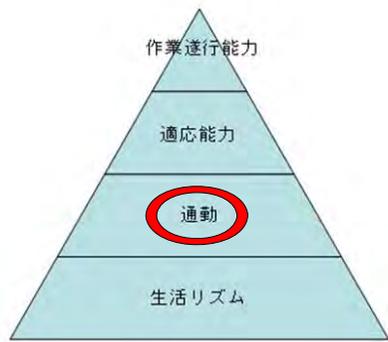
外出が人を変える⇒まちも活性化する

108

安定して生活
 ⇒働くための積み重ねには、通勤が不可欠
 ⇒交通機関の利用が必要不可欠になる

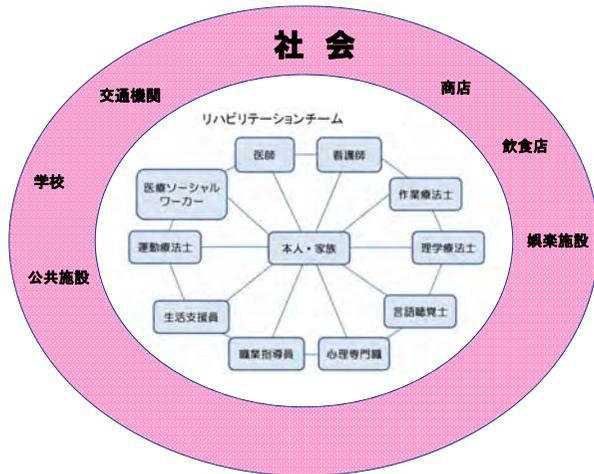


交通機関の活用と支援は、生活に係わる重大事項！



安定して働くための積み重ね

社会が本人・家族を囲まねばならない
 ⇒交通機関のバリアフリーはその中のひとつ
 ⇒社会も障害を持つ人を理解せねばならない
 ⇒日常と非日常の重要性



非日常 観光庁が進める、ユニバーサルツーリズム

すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齢者や制約の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指すもの
 ⇒旅行に出たことがない人でも、旅行に出て生活、人が変わる。

参加者の意見
 ・旅行が近づくにつれ、失敗しないか、迷惑かけないかなど不安が募り、気持ち重かった。
 ・息子がお風呂からでてきたときの笑顔が忘れられない。これでよかったんだ、この顔が見たかったんだと思った。



観光庁資料より



ハワイアンズのショーを鑑賞



大型のリフト付きバスで移動

9. 自身の体験から

⇒まさに高次脳機能障害と同様の症状に見舞われた
 ⇒自身の経験を話すことで参考になっていただきたい

出張中の岡山で倒れる

- 今から7年前の平成19年2月25日(日)
午前10時30分に脳出血で倒れた

- 私は国のバリアフリーガイドラインを作成するために全国の歩道構造調査で、岡山市内に障害者・高齢者を呼び検証中であった。



歩道構造を検証中
(撮影していたが、この5分後に倒れる)
113

入院は4か月に及んだ そこで入院生活を振り返る闘病記を書いた

- 何かを変えなくては何ヶ月も続くリハビリ生活は変わらない。
→ただ文句を病院へ並べても解決にはならず、自身の解決方法を自身で見つけねばならない
- 「何もしないならノートに一日の生活をかくだけ」
→女房から勧められる
- これが最後かも知れないと思うと何でもできた



・周りが見えてきた
・どうせ入院生活をするなら、何かを残しておこうと思うようになった

PT、OT、STの訓練が始まる

- イソップ童話などから五十音の母音の言葉を探す、二桁・三桁の加減乗除、漢字の書き取り、聞き取り、ローマ字の入力(パソコンの練習)など
- 当初は情けない結果。しかし本人は一生懸命が続かない、やっても気づかない日々が続きました。
- 「できない」いら立ち、ジレンマは想像を絶する
→「小学生のドリルをやるのか！」と頭に来る



最も効果的であったのは
会社・友人・病院の人との世間一般の会話

イソップ童話などから母音の言葉を探す・・・



外出訓練

- ・外出訓練は外部との接触(刺激)と社会復帰をする上で大きな自信となった
- ・今まで自分が携わってきたバリアフリーに当事者として恩恵を受ける⇒仕事から障害のことはある程度知っていたので、幸いにして自身が障害を負うことはすんなり受け入れることができた

※ただし、その時点では交通機関に乗ることが目的



117

■ パソコンにより病院生活が激変

- 障害を負ってしまうと手が出ない
(最初はキーボードをどう打てばいいのか分からない。パスワードは何?)
- とにかくキーボードに触れている時間を作る。
- 入力を開始すると、入力する勘と動作が続いてでてる
- 遊びで持ち込んだPCであるが、こんなに能力の回復と失っている片側の機能を補うとは思わなかった。

■ 外界との関係が離れてしまうのを恐れ、毎日、新聞だけは読むようにした

- 最初は買うことが目的化(病室から売店へ行くことがリハビリ)
- 新聞の中身はこの次
- だんだん中身に注意が行くようになり、ついには読むことは日常に戻った

■ 世の中で何が起こったかは知っておくべきと思っただが、それがリハビリにも通じた。

118

- 流れ(生活リズム)と課題をこなして行くことを決めた
→実際は7~8時間の睡眠
→一般の病院では考えられない時間数では?
- 時間と手間暇は自分でさく、「腐らず生活する」ことを目指した
- せっかくの病院生活・時間である。時間と機会を無駄にはしない
- 人間は貪欲な生き物である。
→落ち着けば、食事、言葉、そして活字となっていくのである。
- 病院にいと社会の仕組みや約束を忘れがちである
→社会の仕組みと同様に**時間管理は重要**

119

- 退院後、職場復帰、人生を二毛作のごとく、リスタートしたくなって今の職場へ転職
→あきらめない、攻めの生活

- こんな性格からか入院していた病院の医師とNPOを立ち上げて、高齢者や子ども、ハンデを負っても『まち』で健やかに生活できるための活動を行っています。

- 医師は先日、リハビリで人間回復をする本を出版しました。そこには小生のことも紹介されています。

→書の中には『高次脳機能障害』の言葉が随所に見られます。



120

おわりに

今では世界中を歩くまで回復しました
⇒そして女房が逆にあきれて、ついて来なくなった
⇒外出すること、旅行をすることはリハビリでもあり、人生の目標にもなる



みなさんに外出の楽しさを伝えてください！

f i n